

# 沖縄本島やんばるの森で採集されたヒメトゲムシ

田中 努

〒194-0046 町田市西成瀬 3-21-14 (tsuu3.tanaka@gmail.com)

## Nosodendridae Collected from Yanbaru Forest of Okinawa Island in Japan

Tsutomu TANAKA

### 緒言

国内のヒメトゲムシ科 Nosodendridae は、ケモンヒメトゲムシ *Nosodendron (Nosodendron) asiaticum* Lewis, 1889, クロヒメトゲムシ *N. (Dendrodipnis) coenosum* (Wollaston, 1873), オガサワラクロヒメトゲムシ *N. (D.) ogasawaraense* Yoshitomi, Kishimoto et Lee, 2015, タイワンクロヒメトゲムシ *N. (D.) taiwanense* Yoshitomi, Kishimoto et Lee, 2015 の4種が知られており Yoshitomi *et al.* (2015) の論文に詳しく記載されている。

この中でクロヒメトゲムシは、北海道、本州、伊豆諸島(三宅島)、島後(隠岐諸島)、四国、九州での生息が知られている。また、ムクノキの樹液に多く見られることも知られている。一方、琉球列島におけるヒメトゲムシ科は、石垣島におけるタイワンクロヒメトゲムシが知られているのみである。

今回筆者は、沖縄本島やんばるの森において、これまで記録報告のなかったクロヒメトゲムシを採集したので報告する。成虫と幼虫を複数採集しており、沖縄本島やんばるにおける採集状況、そして今回得られた生息環境とその生態の一部分についても報告する。

### やんばるの森のヒメトゲムシ

#### 1) 採集経緯

筆者は小型の甲虫採集を趣味としており、2017年10月に沖縄県国頭村のやんばるの森を訪れた。当日は天候が悪く、曇りで時より小雨のぼらつく天気であった。雑甲虫を求めて様々な林道をまわりビーティングを行ったが成果は乏しく、当日の採集をほとんど諦めかけて最後に立ち寄った林道が宇嘉林道であった。宇嘉林道にはソウシジュの木が多く(図1)、オキナワネプトクワガタを求めて樹液の出ている木を探した。真っ黒な樹液の出ている木を見つけ(図2)オキナワネプトクワガタを探すと、細い入り口の樹液の奥に、雄と思われる小さな大あごを見つけた。ピンセットでの採集も考えたが、オキナワネプトクワガタは国産ネプトクワガタの中でも最も小さいので、吸虫管での採集を試みた。木の細い入り口に吸虫管の先を差し込み、このオキナワネプトクワガタと思われる個体と共に周りの樹液も一緒に吸い込んだ。するとラッキーなことに、吸虫管の中に2匹のオキナワネプトクワガタと3匹の樹液と同じように全身真っ黒でとても硬そうな不明の甲虫が得られた。



図1. ソウシジュの茂るやんばるの宇嘉林道(12月).



図2. 樹液の出ているソウシジュ.



図3. 沖縄県やんばるの森で採集されたクロヒメトゲムシの成虫 (約6 mm) .



図4. 沖縄県やんばるの森で採集されたクロヒメトゲムシの幼虫 (上：大きな幼虫 約11 mm, 下：小さな幼虫 約9 mm) .

この不明甲虫 3 匹がクロヒメトゲムシであった。

## 2) 採集データ

筆者は最初の発見と採集後に 2 度現地を訪れた。2 度目 (12 月), 3 度目 (2 月) の採集では冬期にもかかわらず, 成虫 (図 3) と幼虫 (図 4) を共に発見することができた。下記にこれまでの採集結果をまとめる。全て採集者は筆者である。

3 exs. (成虫), 沖縄県国頭村宇嘉林道, 18. X. 2017; 4 exs. (成虫), 4 exs. (幼虫), 同所, 6. XII. 2017; 1 ex. (成虫), 2 exs. (幼虫), 同所, 24. II. 2018; 2 exs. (成虫), 1 ex. (幼虫), 沖縄県国頭村



図5. 樹液にいたクロヒメトゲムシ (2月, チイバナ林道) .



図6. 冬期(12月), 成虫と幼虫を採集した木の洞 (水分が多めで葉と土が滞積している) .

宜名真林道, 24. II. 2018; 1 ex. (成虫), 沖縄県国頭村チイバナ林道, 24. II. 2018.

今回採集したヒメトゲムシの同定は愛媛大学の吉富先生にお願いした。その際に, 下記の幼虫採集の記録を伺っているので追記させて頂く。

2 exs. (幼虫), 沖縄県国頭村奥一号林道 (奥与那林道北部), 14. X. 2015, 岡野良祐採集。

以上の採集結果と報告から, クロヒメトゲムシは沖縄県国頭村のやんばるの森に, 西側から東側にかけて広く分布している可能性が高いと考えられる。



図7. 洞の中の土の中から出てきたクロヒメトゲムシ成虫.



図8. 樹液と土中の両方から成虫を採集したソウシジュ (2月).

### ヒメトゲムシの生息環境と生態

採集した全ての個体は、ソウシジュの樹液や樹中、樹間、樹下で得られた。ソウシジュはマメ科アカシア属の常緑高木で、フィリピン、台湾を原産とし、1906年(明治39年)に防風林用の木として台湾から沖縄に導入された。ソウシジュ以外の樹種での採集も試みたが3回の採集では困難であった。ソウシジュの沖縄における拡がりとは本種の繁殖の間には関連性があるのではないと思われる。

10月の採集時の気温は27℃～30℃程度で、先に記載したようにソウシジュの樹液の中から得られた。12月の採集時の気温はおおむね16℃～18℃程度であり、宇嘉林道内を探したが樹液の出ている木を見つけることは出来なかった。一方、2月の採集時の気温は18℃～21℃程度と若干暖かく林道の入り口付近ではジャコウアゲハが、林道内ではオキナワイチモンジハムシが活動をしていた。そして林道内では樹液の出ているソウシジュを3本見つける事ができた。またチイバナ林道では、樹液に來ている本種を観察することもできた(図5)。

12月の採集時は当初、樹液の出ているソウシジュを見つけることが出来ず諦めていた。そして、過去の採集経験からネプトクワガタを求め、樹中や樹下の湿潤な部分や樹間の土や木の葉の貯まった湿潤な部分(図6)の観察を行った。その結果、オキナワネプトクワガタは複数の死体のみで生体を得ることは出来なかったが、驚いたことに、クロヒメトゲムシの成虫と幼虫を同時に得ることができた(図7)。この経験を踏まえ2月の採集では、宜名真林道において樹液と、その樹液が土中に染

み込んだ部分の両方から成虫を採集することも経験した(図7)。

以上の採集結果から、沖縄県国頭村のやんばるの森におけるクロヒメトゲムシは、オキナワネプトクワガタと同じ生息環境を好み、成虫越冬し、成虫と幼虫が一年中観察することが可能と考えられる。これは、Yoshitomi *et al.* (2015)の論文の記載を裏付ける結果とも言える。また、12月の樹下で採集した幼虫は図4に示したように、大きな幼虫(約11mm)と小さな幼虫(約9mm)が同時に得られており、一年間を通して成虫は長命で、産卵は決まった時期に行われない可能性があるのではないかとと思われる。ただし、これら幼虫の差が成熟の差と考えた場合であるが、個体差も考えられる。さらに、ソウシジュの樹液の出ている時期は樹液で活動し、樹液の出ていない時期になると、樹中や樹間、樹下などの土や木の葉の貯まった湿潤な部分に移動して越冬している可能性が高いと考えられる。

### 考察と今後の課題

まず、沖縄県内における分布がやんばるの森だけなのかどうかは課題としてあげられる。ソウシジュは沖縄本島に広く分布しているからである。また、石垣島ではタイワンヒメトゲムシが記録されており、石垣島と沖縄本島の間に種の隔りがあるが、これまで本種は九州よりも北側での採集報告のみであることから、今後、奄美群島、トカラ列島、大隅諸島などの南西諸島でも観察される可能性が高いと考えられ、これらの島での採集が課題である。

次に沖縄県国頭村のやんばるの森における生息環境に関しては、若干わかってきたと考えられるが、生態に関してはさらなる解明が必要である。成虫がどの程度生きるのか、産卵はいつ行われるのか、幼虫はどのように成熟して成虫となるのかなどである。今後、本報告などによりヒメトゲムシの認知が高まり、生態の解明が進むことを期待したい。

### 謝辞

今回の採集で、ヒメトゲムシの種の同定確認をして頂いた、愛媛大学の吉富博之准教授に厚くお

礼申し上げる。また、発表の機会を作って下さった平野幸彦氏と、様々なアドバイスを下さった平野氏が主催している Facebook の 2mm クラブのメンバーに厚くお礼申し上げる。

### 引用文献

- Yoshitomi, H., T. Kishimoto and C.-F. Lee, 2015. The family Nosodendridae (Coleoptera: Derodontoidae) of Japan and Taiwan. *Japanese Journal of systematic Entomology*, 21(1): 35–58.  
 吉富博之, 2015. 日本産ヒメトゲムシ科概説. さやばねニューシリーズ, (18): 21–25.

(2018年4月2日受領, 2018年6月14日受理)

### 【短報】奄美群島請島で採集されたホソカタムシ科の甲虫

請島は加計呂麻島の西南に位置し、面積 13.3 km<sup>2</sup>、奄美群島中 7 番目の大きさの島である。

本年 (2018) の春にかけて、同島の生物調査時に得られた 5 種のホソカタムシが、検討の結果同島未記録の種であることが判明したのでここに記録として報告する。当該 5 種は共に奄美大島・加計呂麻島にも分布する (青木, 2013)。

種名の確定は青木が行い、全ての個体は安藤によって採集されたものである。検鏡を終えた標本はすべて青木が保管している。また、今回の調査を快く許可いただいた鹿児島県大島郡瀬戸内町教育委員会に感謝申し上げます。

ツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus vilis* Sharp, 1885

1 ex., 請島: 請阿室, 瀬戸内町, 鹿児島県, 20. II. 2018. (Ukejima Is.: Ukeamuro, Setouchi-chô, Kagoshima Pref., 20. II. 2018, K. Ando leg.)

ナガセスジホソカタムシ *Bitoma siccana* Pascoe, 1863

1 ex., 請島: 請阿室, 瀬戸内町, 鹿児島県, 20. II. 2018. (Ukejima Is.: Ukeamuro, Setouchi-chô, Kagoshima Pref., 20. II. 2018, K. Ando leg.)

コヒラタホソカタムシ *Bolcocius shibatai* Sasaji, 1984

2 exs., 請島: 請島大山, 瀬戸内町, 鹿児島県, 14. IV. 2018. (Ukejima Is.: Ukejima Ôyama, Setouchi-chô, Kagoshima Pref., 14. IV. 2018, K. Ando leg.)

ダルマチビホソカタムシ *Pseudotarphius lewisii* Wollaston, 1873

2 exs., 請島: 請島大山, 瀬戸内町, 鹿児島県, 14. IV. 2018. (Ukejima Is.: Ukejima Ôyama, Setouchi-chô, Kagoshima Pref., 14. IV. 2018, K. Ando leg.)

オキナワマダラホソカタムシ *Trachypholis okinawensis* Nakane, 1991

1 ex., 請島: 請島大山, 瀬戸内町, 鹿児島県, 14. IV. 2018. (Ukejima Is.: Ukejima Ôyama, Setouchi-chô, Kagoshima Pref., 14. IV. 2018, K. Ando leg.)

### 引用文献

- 青木淳一, 2013. ホソカタムシの誘惑 第2版: 日本産ホソカタムシ全種の図説. 211 pp. 東海大学出版会.

安藤清志 (愛媛大学農学部環境昆虫学研究室)  
 青木淳一 (東京都港区西麻布)

### 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6 号, 有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051  
 東京都品川区平塚2丁目5番8号  
 郵便振替 00130-4-21129  
 電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)  
 FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株) 志賀昆虫普及社